

乳幼児による 加熱式たばこの誤飲事故を防ぐために

● 使用前後のスティック等は 乳幼児の手の届かないところに保管・廃棄しましょう

▲ 誤飲のおそれのある形状・サイズです

スティック等には乳幼児の口腔内に容易に収まるサイズのものがあります。

▲ ニコチンが含まれています

使用前のスティック等1本分のたばこ葉中には、**中毒症状**を引き起こすおそれのある量のニコチンが含まれています。

▲ 液体の入った空き缶などに廃棄しない

液体にニコチンが溶け出し、それを飲んでしまったときに吸収されやすくなるため特に危険です。



● スティック等を誤飲した場合には、 水や牛乳等は飲ませず、直ちに医療機関を受診しましょう

もし、乳幼児が加熱式たばこのスティック等を口にしてしまったら、口の中にたばこ葉がある場合にはかき出し、**水や牛乳などは飲ませず**に、**直ちに医療機関を受診**しましょう。水や牛乳などを飲ませると、水分にニコチンが溶け出し、かえってニコチンが吸収されやすくなってしまいます。



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。
<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー
<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



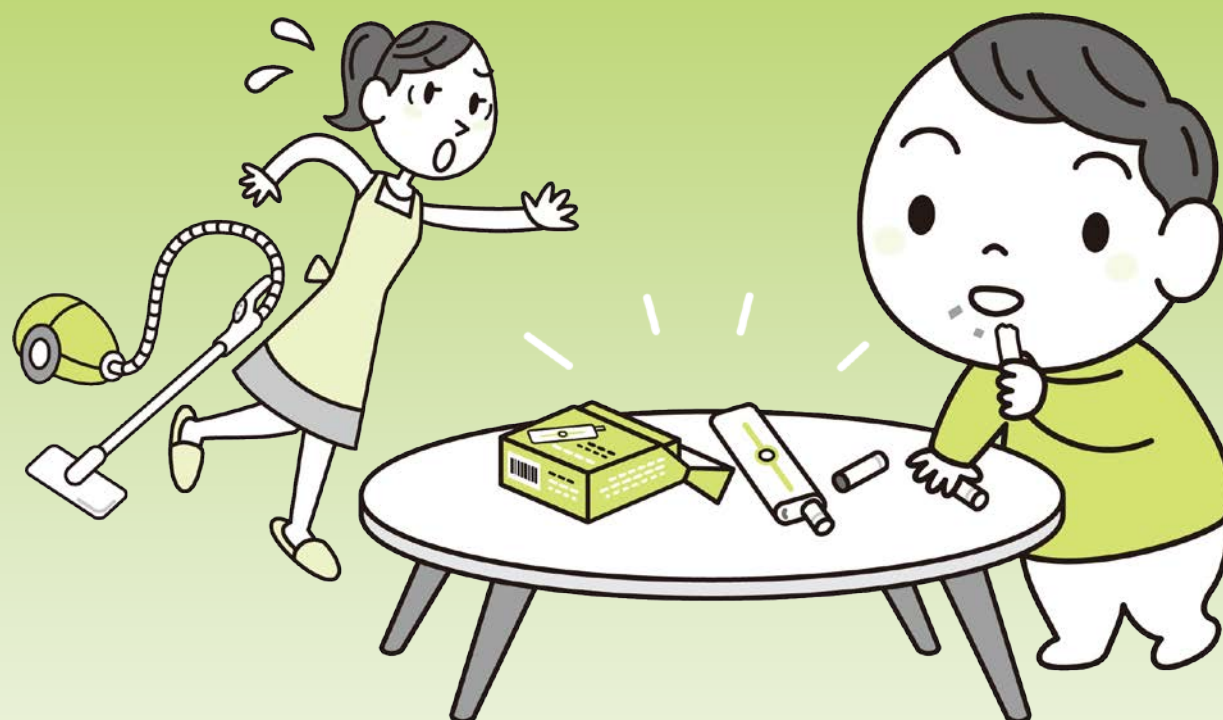
独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2018年 3月発行
イラスト: 川崎 敏郎

くらしの危険

Number
342

乳幼児による 加熱式たばこの誤飲に注意！



近年、乳幼児による「加熱式たばこ」の誤飲事故が報告されています。加熱式たばこは、たばこ葉の入ったスティック等を、専用の装置で電氣的に加熱して、発生した蒸気等を吸う新しいタイプのたばこです（たばこ葉を使用しない「電子タバコ」とは別の製品です）。

スティック等は乳幼児の口に入る形や大きさのため、子どもの目に付くところに放置すると誤飲のおそれがあります。なお、使用前のスティック等1本分のたばこ葉には中毒症状を引き起こすおそれのある量のニコチンが含まれています。

紙巻きたばこと同様、乳幼児の手の届かないところに保管・廃棄をするようにしましょう。



加熱式たばこの誤飲事故が起きています

医療機関ネットワーク*に寄せられた加熱式たばこの誤飲事例より（2010年12月以降、2017年9月末日までの伝送分）
 ※医療機関ネットワーク：消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもの。

ケース 1

加熱式たばこの葉っぱの入っている部分全部を口の中に入れていたのに気がつき、急いで手で取り出した。その後普通にしていたので経過を見ていたが、1時間後あたりからグッタリ、フラフラするようになったので救急要請した。（受診年月 2017年6月、1歳0カ月・女兒）

ケース 2

保護者が家事をしていた際に、部屋のごみ箱にあった加熱式たばこをなめていた。（受診年月 2016年12月、1歳0カ月・男児）

ケース 3

加熱式たばこの吸い殻を割って口に入れていたところを保護者が発見した。すぐに口からかき出した。（受診年月 2016年12月、9カ月・男児）



市販の加熱式たばこを調べてみました

国内で販売されている* 3タイプの加熱式たばこについて、東京都内で購入可能な全フレーバー（計12銘柄）のスティック等を調べてみました。 ※ 2017年9月時点

スティック等は誤飲のおそれのある形状・サイズでした

▼ 調査対象のスティック等の断面（ほぼ原寸大）



- タイプ1と3は、3歳未満の乳幼児の口の中に完全に収まるサイズでした。
- たばこ葉を紙で巻いたタイプ1と2は、口に入れると直接触れたり、唾液が浸み込む可能性がありました。
- タイプ3は容器に入ったものですが、噛むなどすればフィルターが外れる可能性があるほか、そのまま口に入れた場合、格子やフィルターを透過した唾液などにより、たばこ葉の成分が溶出するおそれがありました。

参考

サイズの確認



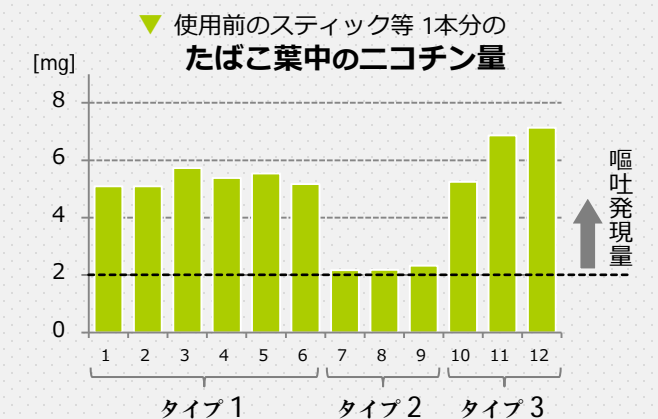
内径約3cmの円筒形の試験器を用いてスティック等のサイズを確認しました。

この円筒に収まってしまふものは、3歳未満の子どもによる飲み込み、窒息の可能性がります。

※一般社団法人日本玩具協会 安全玩具基準 (ST-2016 5.2 小部品試験) を参考にした。

使用前のスティック等 1本分のたばこ葉には嘔吐等の中毒症状を引き起こすおそれのある量のニコチンが含まれていました

- ニコチンは、2~5mg程度の摂取で吐き気を催す可能性があるとしてされています。
- 今回の調査対象銘柄のパッケージには記載されていませんが、使用前のスティック等1本分のたばこ葉には、2~7mg程度のニコチンが含まれていました。



● この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター 公式ウェブサイトの発表情報「乳幼児による加熱式たばこの誤飲に注意」で見ることができます。

■ 乳幼児による誤飲事故

医療機関ネットワークに寄せられた0~2歳の事故情報には、家具等からの転落・転倒事故に続いて、**誤飲・誤嚥**の事故が多くみられました。乳幼児は発達の過程で、身のまわりにある様々なものを手に取り、口に持っていく特性があります（探索行動）。

誤飲・誤嚥の事故に関係した商品には、**たばこ・医薬品・ボタン電池**等が多く確認されています。たばこを食べて入院した事例、家族の薬を複数飲んで胃洗浄した事例、ボタン電池が食道にとどまり手術で摘出した事例など、誤飲したものや体内にとどまった部位によっては、入院や手術を要することもあります。

そのほか、「ペットボトルのフィルムをはがして口に入れた」「ペットのトイレ用の砂を飲んだ」等、大人だけの生活では想像しにくいものを口に入れたケースがありました。

予防のためには、口にしようとするものは床面から1m以下の高さの場所（子どもの手が届くところ）に置かない、低い場所の扉や引き出しは簡単に開かないようにするなど、子どもが触れることがないよう工夫しましょう。

● 独立行政法人国民生活センター 公表資料 「発達をみながら注意したい0・1・2歳児の事故 -医療機関ネットワーク情報から」より http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20160114_1.html